Do!ネット
北海道生活科・総合的な学習教育連盟　情報交流誌　令和6年2月　No.69

私を支えた言葉

札幌市生活科・総合的な学習教育連盟
委員長　森田　智也（札幌市立北園小学校長）

10月6日、雨、風が意地悪なくらい強く学校へ行くのも困難な日、札幌市立円山小学校を会場に第32回北海道生活科・総合的な学習教育研究大会札幌大会が開催されました。全道各地からたくさんの方々にお集まりいただき、熱気あふれる大会となりました。参加された皆さん、授業づくりに熱心に取り組んでいただいた研究部の皆さん、授業部会に足を運んでいただいた皆さん、何よりも貴重な授業、研究提言をしていただいた皆さんに感謝いたします。

さて、私もそろそろ学校というステージからおいとまする日が近くなってきました。これまで、生活科や総合という学習に出会えたことに感謝します。つまらない私ですが、親しくしてくれ、温かい言葉と若干多めの叱咤と激励をしていただいた皆さん、教室でともに過ごした教え子の皆さんに感謝いたします。

私たちはよく、「ひと・もの・こと」という言葉を使います。私を励まし楽しませてくれたのは、「ひと」です。（やや無理矢理感はありますが）、生活科や総合は「もの」です。では「こと」とは何かを考えました。今日この場だけですが、私を支えた「こと…ば」とします。

○一生懸命やっている子が損をする世の中（教室）は間違っている

担任時代、教室の中に一人は要領の悪い子、作業が遅い子がいるものです。でも誰にも迷惑をかけていません。上手にできなくとも、誰よりも丁寧に作業しています。真剣です。そんな子が大切にされるべきです。でもその逆に要領だけよく、成果を手にする子もいます。私はそんなときこの言葉を口にしていました。この言葉はいじめ防止にもなります。

○子ども時代を幸せに過ごした子は大人になっても幸せだ

イギリスの教育学者、ニールさんの言葉だそうです。学校に勤め始めてすぐに教えていただいた言葉です。殺伐とした事件事故を聞く度に、この人は子ども時代きっとかわいそうな子どもだったのかと考えてしまいます。暴力でしか人に接することができない人は、子ども時代に暴力と隣り合わせだったのかもしれません。どんな状況でも、自分はささやかだけど幸せだと感じながら成長してほしいと願っております。学校の先生は、その空間を作ることができます。

○あそんでぼくらは人間になる

このタイトルの書物がありますよね。生活科を勉強した者ならば、この言葉の光具合がよくわかると思います。遊ばされるのではなく、自ら遊んでほしいと思います。大学時代、「ヒマが人間を作る」と言っていた自分を思い出しました。

○「吐く」という言葉、口からプラスとマイナスと書きます

卒業式の式辞ですが、幸せな人生を送るヒントとしてお話ししました。「日頃から、例えば、ちくちく言葉を使っている人より、やさしい言葉や感謝の言葉、前向きな言葉を使っている人の方が、目的を達成しやすいと思いませんか？それには理由があって、応援してくれる人が必ずいるからなのです。」という話です。

○湿った薪を乾かすには、こちらが燃えて乾かすことだ。そこで、自分は薪が乾くのを待てていたか。薪は必ず乾くと信じていたか。そもそも、太陽のように明るく強く優しくこちらが燃えていたか。

２年ほど前の小学校時報という冊子に載っていた、道小元会長・松井光一先生の言葉です。（だと思います）校長としての立ち位置、振る舞い、信念、心がけについて、端的に書かれた言葉というより私にとっては教えです。「校長」を「教師」に置き換えて読んでいただきたいと思います。

本連盟の巻頭言の内容とは少しイメージが違うかもしれません。おちもありません。それでも、皆様方の、何かのヒントになれば幸いです。

主催/北海道生活科・総合的な学習教育連盟　共催/日本生活科・総合的な学習教育学会北海道支部　主管/札幌市生活科・総合的な学習教育連盟

2次案内

第32回北海道生活科・総合的な学習教育研究大会 兼 第29回札幌市生活科・総合的な学習教育研究大会 札幌大会

全道研究主題　自ら学びの世界を拡げ　よりよい自分を創る子ども

札幌大会主題　自分の学びを実感し　未来を拓く子どもの育成

【後援】北海道教育委員会/北海道小学校長会/北海道国公立幼稚園・こども園協議会
札幌市教育委員会/札幌市小学校長会/札幌市立幼稚園・こども園長会

10月6日(金)　授業公開/分科会

■会場：札幌市立円山小学校 ※会場へは公共交通機関をご利用ください。
（札幌市中央区北1条西25丁目1－8）

11:00～11:30　受付
11:30～12:15　授業公開1【生活科】

２年生「目指せ！生きものはかせ」
～動植物の飼育・栽培（内容７）～
授業者：大嶋　悠基（札幌市立円山小学校教諭）

12:15～13:35　昼休憩　※昼食場所に体育館を開放いたします。
13:35～14:20　授業公開2【総合的な学習の時間】

６年生「なんだろう、なんだろう」
～実社会で働く人々の姿と自己の将来（キャリア）～
授業者：竹次　奈央（札幌市立円山小学校教諭）

14:35～15:05　開会行事/研究提言
15:15～16:30　授業分科会

助言者【生活科】
山下　秀一（余市町立旭中学校長）
本間　真純（札幌市幼児教育センター指導主事）
助言者【総合的な学習の時間】
玉井　一行（旭川市立高台小学校長）
村井　悠介（札幌市教育委員会指導主事）

10月7日(土)　シンポジウム/講演会

■会場：ホテルライフォート札幌(札幌市中央区南10条西1丁目)

8:30～ 9:00　受 付
9:00～10:30　シンポジウム 手応えのある学びを実現する授業デザインの在り方
～「資質・能力の具体化」と「教師の支援」～

シンポジスト
■加藤　智（文科省初等中等教育局教育課程課教科調査官/愛知淑徳大学文学部教育学科教授）
■中嶋　孝幸（北海道教育大学附属札幌小学校教諭/札幌地区研究部長）
■小原　広士（北海道教育大学附属旭川小学校教諭/旭川地区研究部長）
■杉立　耕平（和寒町立和寒小学校教諭）
■竹次　奈央（札幌市立円山小学校教諭）
コーディネーター　■渋谷　一典(北海道教育大学教職大学院教授/本連盟副委員長)

10:30～12:00
講演会「教育課程の中核となる生活科と総合的な学習の時間」
講師：齋藤　博伸(文科省初等中等教育局教育課程課教科調査官)

12:00～12:10　閉会行事

参加費(会場参加・オンライン共通)

一般　3,000円
学生　無料

※両日参加、いずれか一日のみ参加問わず上記参加費です。
※学生は参加費無料ですが、参加申し込みが必要です。

申込方法

お申込み、
参加費入金ともに
Live Pocket-ticket
を利用します。

https://t.livepocket.jp/e/bnpg4

上記URLかQRコードより無料会員登録の上、ご対応願います。

■支払い方法
クレジットカード／コンビニ決済
※詳細はLive Pocket-ticketホームページにてご確認ください。

申込〆切10月2日(月)

※入金後にLive Pocket-ticketより送られてくるメールにて、チケット(QRコード)の確認をお願いします。
※チケット(QRコード)は印刷あるいは保存し、会場受付時に提示できるようご準備ください。
※チケット日付は10月6日ですが、10月7日にも対応しています。

★参加分科会等の参加確認をLive Pocket-ticketサイトを通じ申込者様の会員登録時のメールアドレスに送信します。ご回答お願いします。

★当日の資料、開催・入場方法等の詳細につきましても、上記と同様メール送信しますので随時ご確認ください。

お問合わせ　事務局/丹羽洋彦(札幌市立栄北小学校)電話/011-752-7876　E-mail/hirohiko.niwa@city.sapporo.jp
あるいは Live Pocket-ticket イベントページの問い合わせフォームへ

【札幌市立円山小学校】10月6日（金）授業公開1【生活科】11:30～12:15

２年生「目指せ！生きものはかせ」～動植物の飼育・栽培（内容７）～

授業者　大嶋　悠基（札幌市立円山小学校教諭）

私の実践コラム

「好き！」を大切に

文＝大嶋悠基

生き物が好きで実践に生かしたいという確固とした思いをもっていた自分

昔から生き物が好きでした。どちらかと言えば、動物園にいる動物というよりは、自分の身の回りにいる生き物を捕まえたり、飼ったりすることが好みでした。胴付長靴を履いて川の中に入ったり、真夜中にクワガタを探し回ったり。そんな私が特に気に入っていた生き物がカナヘビでした。

カナヘビ自体を教材化して扱うのは、実は三年前の一年担任のときが初めてでした。その時に、カナヘビという生き物のもつ動きや表情といった魅力に、子どもたちが惹き込まれていく姿を見ることができました。

そして今回、こういう形で授業実践を公開させていただく機会を得て、改めてカナヘビを扱いたいと思いました。さらに、二年生の学習ということを考えた際に、カナヘビ以外の様々な生き物も扱うことで、学びがより深まっていくのではと感じました。

そのことを、最初の授業づくり部会の中で延々と語ったことを今でも覚えています。教材化する生き物は身近と言えるのか、多様な生き物を飼育することで愛着が深まるのか、様々な御意見をいただきました。でも、結局参加された皆さんは、授業者がそんなに楽しそうに語るのだから、やってみようと言ってくださいました。その後も、私の思いや構想を汲み取ってくださりながら、たくさんの御助言をいただき、授業をつくっていきました。

実践する前から想定していたこと それを超越していく子どもの姿から私自身が新たに学んだこと

実践をする前から、子ども一人一人が好きになる生き物はきっと違うだろうと考えていました。だから、多様な生き物を教材とすることは、子どもの多様な感性のニーズに合致するのではないか。また、実際に自分で捕まえてこない生き物でも、毎日繰り返し関わるうちに身近な存在になるということ。いろいろな生き物を時期をずらしながら飼育することで、以前飼育していた生き物の経験を活用したり、関連させながら考えたりするということについては、全く想定通りでした。

特に「身近」という点では、自分たちでも札幌のいろいろなところに見付けに行く子たちが現れました。捕まえられなかったけど見付けたことをみんなに知らせたり、写真を撮って見せてくれたりする子たちにとっては、それらの生き物はとっても身近な存在となっていると言えるのではないでしょうか。

ところが、そんな私でも想定していなかったことが起こっていました。

まず、授業を始めた当初、生き物好きが比較的多い私の学級でしたが、実はその「好き」にも大きく幅がありました。また、当然のことながら、苦手な子も一定数いました。みんながみんな生き物を飼育することに、一様に前向きなわけではなかったわけです。

でも、学級みんなで一つ一つの生き物を飼育することで、徐々に生き物に慣れちょっとずつそのよさに気付き、自分のペースで緩やかに生き物耐性を身に付けていったのです。その結果、カナヘビを飼育する頃には、どの子も同じレベルで生き物に関わることができるようになり、同じ熱量で対象に関わったり話し合ったりすることができました。

また、月に一種類のペースで飼育する生き物が登場することで、生き物への関心を高める刺激となって、長いスパンでモチベーションを保持することに繋がっていたことにも驚きました。

授業づくりから今日までの実践を通して

今でも子どもたちは飼育している生き物を大切に育てています。その後、ニホントカゲなども仲間に加わり、学習が続いています。博士を目指したこと、本物の博士に会ったこと、気付きを研究ボードに整理したことなど、本実践でたくさんのことを学びました。自分の「好き」を全面に出した授業ができて、本当に幸せでした。ありがとうございました！

〈生活科授業分科会〉

記録：明石　好未（札幌市立幌西小学校教諭）

１ 授業の内容について

生活科では大嶋悠基先生による２年生「目指せ！生きものはかせ」の授業が公開されました。春から「生きもの博士になりたい。」という目標を掲げ、年間を通して学習に取り組んできた大嶋学級の子どもたち。子どもたちの主体的な学びの姿を引き出すために、取り扱う生き物は一つに限定せず、学級全体で育てるかどうか相談しながら飼育する生き物を決めてきました。本時で取り扱ったのはカナヘビです。カナヘビはトカゲの一種で、円山の地域にも生息し、円山小学校の２年生にも身近な生き物といえます。実際に、本時に至るまでに子どもたちから自然と「カナヘビを見つけたよ。」「次はカナヘビを飼ってみたい。」という思いが生まれました。主な活動場面は毎日の朝活動の時間や休み時間で、授業として扱うのは月に２度程度の「生き物タイム」です。そして、本時では、その「生き物タイム」でカナヘビの研究成果を交流する活動を通して、カナヘビの特性やよりよい飼育の仕方について考える場面でした。さらに、カナヘビの飼育方法はグループで相談して決めてきました。秘密にしていたケージを見合い、研究成果を報告し合います。カナヘビの特性が分かったところで、これまでお世話になってきた円山動物園の飼育員であり、生き物の専門家である片岡さんに研究成果を報告し、「生き物博士」になれたか認めてもらおうと頑張ってきました。

２ 授業の様子について

授業では、子どもたち一人ひとりが「自分たちのカナヘビがどれだけかわいいのか。」という熱い思いをもって学習に向かう姿がたくさん見られました。それは、長期のスパンで繰り返し生き物の飼育を行ってきたことや、研究ノートや研究ボード（写真１・２参照）という授業者による細やかな手立てがあったからこそといえます。

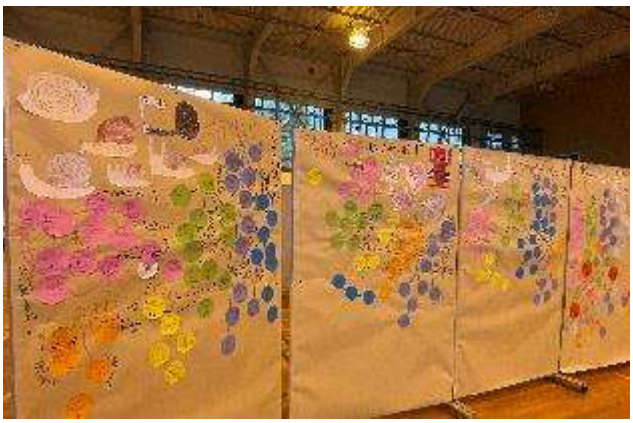
特に、全体交流の場面では子どもたちの思いが顕著に現れていました。授業者の想定では、これまでの学習の過程で研究ボードに「どういう飼育の仕方をしたか。」という部分について多くまとめられていたため、全体交流でも飼育について多く発表するのではないか、というものでした。しかし、実際に子どもたちから出てきたのは、「このカナヘビは左足だけを木に付けながら、くるんと回ることができるんだよ。」「舌はこんな風に動くんだ。」などと、カナヘビを飼育する中で体験しながら発見してきた特性についてが多数となりました。子どもたちのカナヘビに対する愛着が深まったことがこういった表現活動の中で垣間見えたのです。

また、敢えて飼育方法を隠したことによって、それぞれのグループの飼育方法に差がはっきりと出ていた上に、本時に向けて「他のグループはどう飼育したのだろう。」と気になって仕方がなかった様子が現れていました。このようなこれまでの教師の働きかけによって、子どもたちは自分たちの飼育に自信をもち、子どもたちの「話したい。」という思いが高まったのだと考えられます。

最後の振り返りでは、「カナヘビに幸せになってほしい。」「たくさん食べてほしい。」と、愛情あふれる言葉が出てきました。生き物に精通している大嶋先生の強みが生かされた素晴らしい授業でした。

写真１：研究ノート

写真２：研究ボード



【札幌市立円山小学校】10 月6日（金）授業公開2【総合】13:35～14:20

６年生「なんだろう、なんだろう」
～実社会で働く人々の姿と自己の将来（キャリア）～

授業者　竹次　奈央（札幌市立円山小学校教諭）

〇単元を通して

円山小学校の６年生は、職業について憧れをもち、そのために努力したいと考えている子が多数います。その一方で、自己肯定感が低く、周囲と比べ、「自分なんか…」と消極的になる子も一定数存在していました。豊富に知識を有している反面、視野が狭くなりがちで、「いい大学に進学して、安定した職業に」という固定的な考え方が根付いている状況です。そのような実態を踏まえ、子どもたちの未来に対する視野を少しでも広くし、「自分」に自信や期待をもてるように、単元を構成していきました。

単元を構成する上で大切にしたことは、「キャリア＝自分を知ること＝生き方を考えること」という思考のつながりです。『小学校におけるキャリア教育の手引き』には、「～どのような職業生活を送るのかに関することは、人がいかに生きるのか、どのような人生を送るのかということに深く関わっている。この意味で、一人一人が自らの勤労観・職業観の形成・確立を図ることは極めて重要である。」と述べられています。ただ職業についての知識を得るのではなく、自分自身を徹底的に見つめ、自分はどんな人間なのか、何が得意・好きで、どんな人生を歩みたいのかまで考えられるように、「自分」と「働く」のバランスを意識して、子どもたちと一緒に相談しながら、学習を進めました。

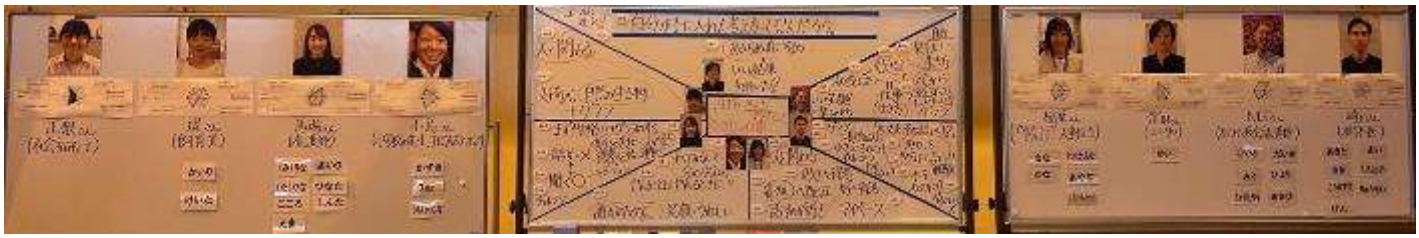
〇本時に関わって

↑子どもが記入したシート

子どもたちは自分を見つめるため、「じぶんって、なんだろう」シートへの記述に取り組みました。常にこのシートに立ち返りながら学習を進めることを単元の核としました。

学習を進める中で、「実際に働く人に話を聞いてみたい。」「調べるだけでは分からないことがある。」という言葉が子どもたちから出るようになり、８人のゲストティーチャー（以下、GT）と出会うことになりました。GT にもなんだろうシートを書いてもらい、自分のものと比較することで、本時のテーマである「共感」に迫っていきました。

本時では、８人の GT のうち、一番共感した人について、その理由も含めて交流することにし、「自分が働くとき大切にしていきたいこと」についての整理・分析をしました。



成果としては、子どもたちが、一見かけ離れた「働き方・生き方」について、自分事として考えることができていたことが挙げられると思います。「なんだろうシート」や実際に聞いた話を基に、GT と自分自身を比較しながら話したり、振り返りに記述したりする姿が現れていたと、私自身も感じることができました。

課題としては、分科会でお話しいただいた通り、子どもたち同士の考えを比べたり関連付けたりする手立てがもっとあったのだろうと考えました。選んだ GT が同じ友達と話したり、違う友達と話したりすることで、より主体的な交流が行われたのかと思います。今後の学習活動に生かしていきたいです。

〇最後に

今回授業を公開する機会をいただき、この単元を進めてきて、普段の学習場面でも、子どもたちの考え抜く姿勢や、発言の質が向上したと感じます。総合的な学習のもつ力を、学ばせていただきました。

御助言、御指導いただき、誠にありがとうございました。

〈総合授業分科会〉

記録：山本　文郁（札幌市立南郷小学校教諭）

１　本日の授業について

札幌市立円山小学校６年生の総合的な学習の時間では、キャリアをテーマにして授業を行いました。担任の思いとして６年生が卒業した時に、自信をもって進んでいけたらという思いからのスタートさせた単元です。「自分らしさや自信をもつことが苦手にしている子、人と比べてしまう子が実態として多い」からこそ、「自分っていいな」という思えるものを見付けていけるようにと意識して授業を進めていきました。

そこで、「なんだろうシート」による自己の分析をし、ゲストティーチャートの関わりの中で、人と関わっての自分ということを意識できるように工夫を凝らしました。

２　授業を行ってみて

○「なんだろうシート」の更新について話題になりました。「『なんだろうシート』を更新すること自体が自分を知ることにつながるという考えを子どもたち自身がもっているため、『なんだろうシート』が書きやすくなることが自分を知ったということにつながる。」と述べていました。

○「本時の目標は納得解や自信をもたせていくことだったのに対し、一斉授業で進めていたが、それぞれの子どもの気付きの質を更に一段階深めていくために、全体の交流があってもよかったのではないかと思います。」という意見がありました。また、「同じ触れ合った人同士で、共感できる部分を確実に自分のものにしていきつなげていくなど、ミニマムなグループでやっていった方が目標達成できていたのではないかと思います。」という意見もあり、全体交流の場を設けるべきだったという意見が多く寄せられていました。

○学びの手応ごたえを生むための問い・捉え直し・振り返りについても話題になりました。「難しさは実体のないものだから、『なんだろうシート』を用いて、可視化しながら自分の学んだものが分かることはよいと思いました。『なんだろうシート』を更新していく上で、いろいろな情報を取り入れて、自分で更新していくのがよかったです。」という意見がありました。

【ご助言】

札幌市教育委員会　村井悠介指導主事

○今までのキャリア教育は、職業にスポットを当てていたが、職業観だけでなく自分の歩む今後を考えていくことが大切です。

○課題としては、深めることができたのではないかというところ。発表会形式だと、内なる主体性がつぶれてしまうし、一問一答になってしまったので、自分たちで主体性を働かせて深めていけるようにしていくことが必要だと思います。

旭川市立高台小学校　玉井一行校長先生

○札幌市の研究の資質能力についてですが、探究の過程について、めざす資質・能力の具体化、特に評価基準の具体化、探求の過程を位置付けていることが特徴的でした。これが、実社会や実生活と関わりにつながっていくためのステップになっていきます。自分とのかかわりで学ぶということが今日の授業の中では「なんだろうシート」が俊逸だったと思います。

○概念はいきなり生まれるものではないと思います。「〇〇観」が単元を終えた時にどうなっているかというところが概念と似ていると思います。子どもたちが学習前にもっていたキャリア観が、単元が終わるにつれて段階的に高まるというところが概念と考えてよいと思います。生活科は、この段階的に深めていくことがだいぶできるようになってきたが、総合は時数が長いはずなのにだいぶざっくりしている印象なので、今後に期待したいと思います。

【ホテルライフォート札幌】10 月7日（土）シンポジウム 9:00～10:30

手応えのある学びを実践する授業デザインの在り方
～「資質・能力の具体化」と「教師の支援」～

【シンポジスト】
加藤　　智（文部科学省初等中等教育局教育課程課調査官/愛知淑徳大学文学部教育学科教授）
中嶋　孝幸（北海道教育大学附属札幌小学校教諭/本連盟札幌地区研究部長）
小原　広士（北海道教育大学附属旭川小学校教諭/本連盟旭川地区研究部長）
杉立　耕平（和寒町立和寒小学校教諭）
竹次　奈央（札幌市立円山小学校教諭）

【コーディネーター】
渋谷　一典（北海道教育大学教職大学院教授/本連盟副委員長）

「手応え」に関わって理解を深められるようなシンポジウムに、6 年実践　キャリアと食品ロスから考える。

◆和寒小　杉立教諭の実践から
・町の農産物であるカボチャの廃棄から、カボチャの有効活用を考える学習
　・・・ハネ品でのお菓子作り
・身近な存在としてのカボチャから、地域の人を巻き込み、子どもが本気になっていく姿が見られた。
・学習材をカボチャとしたことは、子どもの実態に即したものであり、カボチャを取り巻く人の思いから、深まりのある学習となった。
○　和寒町のカボチャ農家さん、喫茶店のマキさんなどのインタビュー動画あり
・大人の本気を子どもに見せたい。
・いろいろなチャレンジをしている人がいると知ってほしい。

◆円山小　竹次教諭の実践から
・「なんだろうシート」による知らなかった自分を発見
・「共感」の捉え方・・・人生観（性格・考え方）や職業観（生き方・仕事）
・「キャリア」の捉え・・・これからの「自分の生きる道」である。

杉立教諭、竹次教諭の実践から見えてきた「手応え」とは
　①　「できた、分かった」　・・・実感、　②「自分でやれた」　・・・達成感、
　③　「育った自分が分かる」・・・自己の成長を実感
　・発言や振り返りなどを見ると、「手応え」の感じ方は、子どもによって違う。
　・達成感は、人に受け入れてもらえること。
　・働きかけて反応があるという双方向性があり、働き返してくれる相手がいて反応がある。
【本実践における「資質・能力の具体化」とは】
・探究の学びがどういうものかを、子どもが学ぶことで実感できる。
・資質・能力を自覚する姿がある。
【教師の支援における大切なポイント】
・人との関わらせ方、出会わせ方・・・子どもが本気になる　人を巻き込んでいく　人とのつながりを学ぶ
・子どもありきの単元構成・・・子どもの「こうしたい」を大切にし、やりながら課題探し

フロアから参加した会員

松坂マネージャーをはじめ、授業に協力してくださったセブン-イレブン・ジャパンの皆様

実践における「手応え」について、フロアの参加者からも様々な捉えが共有されました。今後、本連盟での授業研究に生かされていくことでしょう。和寒町のカボチャを使ったスイーツをセブンイレブンが開発してくださったとのことで、開発に携わってくださった方々もシンポジウムに参加してくださいました。松坂マネージャーからは、「杉立先生の『この取組を大人の取組にしないでいただきたい』という声から、子どもたちと開発した」というエピソードも明かされました。子どもたちが開発したスイーツは、北海道　1000 店舗で販売されました。シンポジストによる試食タイムもあり、授業者や授業に関わってくださった方の思いが伝わるシンポジウムとなりました。　【文責：川見明子（札幌市立西岡北小学校校長）】

【ホテルライフォート札幌小学校】10 月7日（土）講演会 10:30～12:00

教育課程の中核となる生活科と総合的な学習の時間

講師　齋藤　博伸　氏（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

札幌大会２日目、斎藤博伸調査官より「教育課程の中核となる生活科と総合的な学習の時間」というテーマで講演がありました。

齋藤先生のお話を聞いて、生活科と総合的な学習の時間が教育課程の中核となるために、「関連」というワードがたくさん使われていたことが印象的でした。

他教科との関連

生活科では、他教科との関連をいかにさせていくかというお話がありました。生活科の観察カードへのまとめ方も、国語と関連させた指導を行うことで表現力の高まり方が変わるということでした。他教科とどのようにつなげるかを考え、そのつながりをしっかりと指導計画に示していくことが大切だと感じました。そうすることで、より教科ごとの学びがつながっていくのだと思いました。そして、総合では、「他教科等及び総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付けること」が目標にあることから、より他教科との関連が求められるということでした。

幼保小の関連

横だけでなく縦のつながりとして、生活科であれば、幼稚園や保育園での学びとのつながり、理科や社会など３年生以降の学習とのつながりなどを関連させて考えることも大切だというお話がありました。理科の何の学習につながるかを考えることで指導のポイントも変わってくるのだと思いました。

単元づくりにおける視点の関連

単元づくりにおいては、「子どもの関心や疑問」「教師の意図」「教材の特性」の３つの視点の関連が挙げられました。ウェビングマップに広がる児童や生徒の思いから探究のサイクルを考え、どんな子どもの姿にしたいかという教師の意図を見通すことで、精選された「材」になるというお話でした。

単元を考えていく際にも、一つの視点や方法だけでなく、いろいろな方向から関連させて考えてみることが必要だと感じました。

外部との関連

総合においては、ゲストティーチャーなど外部とのつながりが増えたとき、その情報をどう可視化し、生きて働く情報にするかということが大切だというお話がありました。身近な実践の中でもよく起こりうることであり、今回の全道大会でも教師が外部との連携をしっかりと取り、コーディネートすることで子どもの学びにつながっているのだと感じました。

（文責：札幌市立福住小学校　松尾　久美）

番外編

大会を終えて～アンケートより参加者の声～

【生活科授業＆分科会の感想】

- 意図的なグループ編制や飼育方法を秘密にするなど、子どもたちが主体的に「話したい！」となる工夫がされていて、勉強になりました。
- これまでの飼育経験や地域の素材を生かした飼育活動で、大変参考になりました。
- たくさん話ができる子どもたちでした。きっと魅力のある活動の積み重ねなんでしょう。
- 児童の生き生きとした様子や活動がよかったと感じました。
- 飼育活動、ワークシートへの記述、伝え合いといった手立てが子どもたちを主体的にさせていったんだと思いました。札幌地区の研究内容１の有効性を感じました。
- 児童の語彙力の高さ、自分の調べたことに基づく発言に大変驚きました。
- 学校生活の他の場面にもこの信頼関係が出るのだろうなと思いました。

【総合的な学習の時間授業＆分科会の感想】

- 自分がどんな大人になりたいかを考え、そのために今から何ができるか、何をしていけばよいかを考える授業だった思いました。(渡島)
- 自分について理解を深めるツールとして「なんだろうシート」が有効であることがよく分かりました。
- グループでの深まりが話題になっていたが、確かにグループでの協議で子どもたちの考えも深まるかもしれないなと思いました。
- 授業が素晴らしかったので、分科会も実り多いものであった。
- 小学生のうちから様々な職業を知ることができ、将来の夢も広がると感じました。また、総合では、子どもたちが主体となる授業をすることが大切なのだと学びました。
- 自分としっかり向き合っていた。

【シンポジウム＆講演会の感想】

- 和寒の廃棄カボチャを活用したお菓子の商品化は素敵な実践で、地元の大人が本気で子どもたちと関わっている姿に大変感銘を受けました。
- 授業や単元の作り方だけでなく、材の分析(材の探し方、分析の仕方)がとても大切なのだと痛感しました。
- シンポジウムはもう少し時間をとってもよかった気がします。
- 講演会でのお話を聞いて、学びの中核になるような生活科と総合を考えていきたいと思いました。
- 講演会は、授業実践にからめたお話をいただき、イメージがしやすかったです。
- 子どもも自分も手応えを感じることのできる授業をめざしたく、そのため、地域の人との連携や計画がとても大切だと感じました。

【運営に関しての感想】

- ２日目は体調を崩したのですが、オンラインでシンポジウムと講演会を在宅で観ることができました。
- 実りの多い大会でした。たくさん勉強させていただきありがとうございました。(渡島)
- 円山小学校の会場が体育館で完結しており、授業もすべて観ることができ、参加先生方との交流もしやすく、よかったと感じました。
- 研究内容と本時とのつながりを丁寧に伝えてくださったおかげで、考えるべきことがシャープになり、とても参加しやすかったです。
- 遠方から参加する場合、資料をもう少し早めに出していただけると印刷ができるのですが。
- 人とのつながりを実感できた研究会でした。次期夏季研修会開催地の上川へのご協力よろしくお願いします。

お忙しい中、原稿を執筆くださった皆様、誠にありがとうございました。
他の皆様、次回以降、ご協力よろしくお願いいたします。